■　令和３年度・令和４年度入学生用　カリキュラム・マップ　■

人文社会科学研究科　臨床人間科学専攻

（令和3年1月12日更新）

学位	修士（臨床人間科学）								ディプロマ・ポリシー（DP）			
付属情報	◎＝DP達成のために特に重要な事項、○＝DP達成のために重要な事項、△＝DP達成のために望ましい事項								DP1. 専門基礎能力	DP2. 研究等遂行能力	DP3. 汎用的能力	DP4. 社会への発信と貢献能力
大区分	中区分	小区分	必修選択	科目NO	授業科目	単位	開講種別	授業目標	1- a	2- a	3-a	4-a
総合講義			必修		臨床人間科学	2	講義	本講義では、臨床人間科学専攻での学びの始まりにあたって、臨床人間科学の研究理念、具体的な諸問題の考究のなかで「臨床の知」を鍛えることの意味について理解し、併せて、広義の「臨床」に関わる倫理的、法的、社会的、文化的問題に焦点を当てて、対人援助職に関わりの深い法について学ぶ。	◎	△	○	◎
総合講義			必修		対人援助の倫理と法	2	講義・演習	心理臨床やケア、福祉サービスといった広義の対人援助、ならびにNPO活動や行政への働きかけなど共生社会の実現に向けた諸活動の現場おける、倫理的な問題、法的な問題、行政的・制度的な問題についての、生きた知識、および、実践活動を単なる技術論にとどまらない視点で捉え直す姿勢と感受性を、獲得する。	◎	△	◎	◎
研究法			選必		臨床心理学研究法Ⅰ	2	演習	臨床心理学における研究の手法について、実践的に習得する。併せて、自らの問題関心を明確にしながら研究計画をたて基本的な文献や資料を検討し研究の基礎固めを行う。	○	◎	◎	○
研究法			選必		臨床心理学研究法Ⅱ	2	演習	臨床心理学における研究の手法について、実践的に習得する。併せて、自らの問題関心を明確にしながら研究計画をたて基本的な文献や資料を検討し研究の基礎固めを行う。	○	◎	◎	○
研究法			選必		臨床人間学研究法Ⅰ	2	演習	臨床人間学における研究の手法について、実践的に習得する。併せて、自らの問題関心を明確にしながら研究計画をたて基本的な文献や資料を検討し研究の基礎固めを行う。	○	◎	◎	○
研究法			選必		臨床人間学研究法Ⅱ	2	演習	臨床人間学における研究の手法について、実践的に習得する。併せて、自らの問題関心を明確にしながら研究計画をたて基本的な文献や資料を検討し研究の基礎固めを行う。	○	◎	◎	○
研究法			選必		臨床社会学研究法Ⅰ	2	演習	臨床社会学における研究の手法について、実践的に習得する。併せて、自らの問題関心を明確にしながら研究計画をたて基本的な文献や資料を検討し研究の基礎固めを行う。	○	◎	◎	○
研究法			選必		臨床社会学研究法Ⅱ	2	演習	臨床社会学における研究の手法について、実践的に習得する。併せて、自らの問題関心を明確にしながら研究計画をたて基本的な文献や資料を検討し研究の基礎固めを行う。	○	◎	◎	○
研究法			選必		臨床身体運動学研究法Ⅰ	2	演習	臨床身体運動学における研究の手法について、実践的に習得する。併せて、自らの問題関心を明確にしながら研究計画をたて基本的な文献や資料を検討し研究の基礎固めを行う。	○	◎	◎	○

大区分	中区分	小区分	必修選択	科目NO	授業科目	単位	開講種別	授業目標	1- a	2- a	3-a	4-a
研究法			選必		臨床身体運動学研究法Ⅱ	2	演習	臨床身体運動学における研究の手法について、実践的に習得する。併せて、自らの問題関心を明確にしながら研究計画をたて基本的な文献や資料を検討し研究の基礎固めを行う。	○	◎	◎	○
専攻共通			選必		質的調査演習	2	演習	主に文献講読を通じて、「質的研究」の発想、目的、データ収集に関わる各種手法、収集されたデータの分析方法について、理論的・認識論的観点からも深く理解し、研究遂行のための基礎的能力を高める。	○	◎	◎	○
専攻共通			選必		質的分析演習	2	演習	質的研究におけるとくに実際的な分析方法について学んだ上で、受講生各自が自身の関心に即して自由報告を行い分析を体験することを通して基礎的技術を身につけることで、研究遂行能力を獲得する。	○	◎	◎	○
専攻共通			選必		量的調査演習	2	演習	量的調査を企画・実施し、適切な手法で集計・分析できるようになる。	○	◎	◎	○
専攻共通			選必		計量分析演習	2	演習	データ分析を行う場合や先行研究を正しく・批判的に理解するための汎用的で必須のスキルとして、計量社会学分野で用いられる回帰分析に代表される統計解析を中心に、社会学で多く用いられる質的（カテゴリカル）データの分析方法を修得する。また、学術論文の講読を通じて、統計リテラシー（統計データの分析結果を正しく読み解く能力）を高める。	○	◎	◎	○
専攻共通			選必		実験研究法演習	2	演習	ヒューマンサービスや社会政策分野で必要となる臨床人間科学的な事象を実験的に検証する基礎的手法について修得し、実験デザインの組み立て方、さらには人に関する研究を行う研究者の倫理上の留意点とその手続について理解する。	○	◎	◎	○
専攻共通			選必		運動生理測定法演習	2	演習	呼吸循環機能および骨格筋の活動様相を測定する手法を利用し、実際の運動中の生態応答および適応の変化を得る実験を行い、測定パラメータの分析結果から運動生理学の基礎であるエネルギー系出力について理解する。	○	◎	◎	○
専攻共通			選必		臨床人間科学学外実習Ⅰ	1	実習	対人援助の実践領域における実習を通じて支援に携わる上での基本姿勢を修得し、必要な知識・技能・倫理について説明できる。医療、福祉、矯正、教育等々といった幅広い分野にわたって、現地で参加型の体験学習をすることで、さまざまな施設の仕組みやその機能等について学び理解できる。	◎	△	◎	◎
専攻共通			選必		臨床人間科学学外実習Ⅱ	1	実習	対人援助の実践領域における実習を通じて支援に携わる上での基本姿勢を修得し、必要な知識・技能・倫理について説明できる。医療、福祉、矯正、教育等々といった幅広い分野にわたって、現地で参加型の体験学習をすることで、さまざまな施設の仕組みやその機能等について学び理解できる。	◎	△	◎	◎
専攻共通			選必		多文化共生実習Ⅰ	1	実習	海外学生との交流を通じて、多様な文化や社会構造を踏まえ、心理学研究や臨床心理学的対人援助のあり方の差異を実体験することで、当該専門分野を日本文化を背景とする相対的で幅広い視野で理解する。	△	△	◎	◎
専攻共通			選必		多文化共生実習Ⅱ	1	実習	海外学生との交流を通じて、多様な文化や社会構造を踏まえ、心理学研究や臨床心理学的対人援助のあり方の差異を実体験することで、当該専門分野を日本文化を背景とする相対的で幅広い視野で理解する。	△	△	◎	◎
臨床心理学			選必		臨床心理学特論	2	講義	心理臨床の基本的な考え方と態度を理解する。	◎	△	○	○

大区分	中区分	小区分	必修選択	科目NO	授業科目	単位	開講種別	授業目標	1- a	2- a	3-a	4-a
臨床心理学			選必		臨床心理学論	2	講義・演習	心理臨床家として必要な資質の生涯学習とキャリア形成の観点から、心理臨床の実践と理論との関係・実践と社会との関係・実践と研究との関係、等についての理解を深める。	◎	○	○	◎
臨床心理学			選必		臨床心理面接特論（心理支援に関する理論と実践）	2	講義	臨床心理面接についての理論を学び、面接の場についての認識を深め、心理臨床家としての基本的な態度を理解する。	◎	△	◎	◎
臨床心理学			選必		臨床心理面接演習	2	演習	臨床心理面接についての理論、面接の場についての認識、臨床家としての基本的態度を踏まえた上で、実際に面接ケースを担当していくための基礎力を修得する。	◎	△	◎	◎
臨床心理学			選必		臨床心理査定特論（心理的アセスメントに関する理論と実践）	2	講義	心理アセスメントの考え方を学び、検査の実施から報告書の作成までができるようになる。	◎	◎	◎	○
臨床心理学			選必		臨床心理査定演習	2	演習	心理アセスメントの考え方を学び、検査の実施から報告書の作成までができるようになる。 自らの被検者体験を通じて、査定法及び投影法への理解を深める。	◎	◎	◎	○
臨床心理学			選必		コミュニティ・アプローチ特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	1	講義	心を痛め、病を抱える人達の理解には、社会生活という文脈を無視できず、その回復においても、個人の認知・行動的変化を促すだけでなく、個人が生活する家族や社会環境の改善も重要な役割を果たしていることを理解し、家族および社会システムの急激な変化から事例化する種々の問題に即応できる臨床心理学的援助の視点とその方法論を習得する。	◎		○	◎
臨床心理学			選必		心の健康教育に関する理論と実践	1	講義	（1）心の健康教育に関する理論について体系的に理解する。 （2）心の健康教育の実践について基礎的な知識・スキルを獲得する。	◎		○	◎
臨床心理学			選必		臨床心理基礎実習Ⅰ	1	実習	心理臨床の基礎的な事項について理解する。	◎		◎	◎
臨床心理学			選必		臨床心理基礎実習Ⅱ	1	実習	心理臨床実践、実務の基礎的事項について実践できるようになる。	◎		◎	◎
臨床心理学			選必		臨床心理学外実習Ⅰ（心理実践実習Ⅰ）	4	実習	臨床心理支援の実践領域における実習を通じて、支援に携わる上での基本姿勢を修得し、臨床心理士および公認心理師に必要な知識・技能・倫理について説明できる。医療、福祉、矯正、教育等々といった幅広い分野にわたって、現地で参加型の体験学習をすることで、さまざまな施設の仕組みやその機能等について学び理解できる。	◎	△	◎	◎
臨床心理学			選必		臨床心理学外実習Ⅱ（心理実践実習Ⅱ）	2	実習	臨床心理支援の実践領域における実習を通じて、支援に携わる上での基本姿勢を学ぶとともに臨床心理士および公認心理師に必要な知識・技能・倫理について理解を深める。	◎	△	◎	◎
臨床心理学			選必		臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅲ）	4	実習	心理臨床の実際についての理解し、実務を遂行できるようになる。	◎	△	◎	◎

大区分	中区分	小区分	必修選択	科目NO	授業科目	単位	開講種別	授業目標	1- a	2- a	3-a	4-a
臨床心理学			選必		臨床心理実習Ⅱ	1	実習	心理臨床の実際についての理解を深める、多様なアプローチでの実務を遂行できるようになる。	◎	△	◎	◎
臨床心理学			選必		臨床心理学講読演習Ⅰ	2	演習	論文講読演習を通じて、心理学の研究法を具体的に理解し、研究実践に必要な知識・能力を身につける。 併せて論文を批判的に読み込む力、文献資料を検索し、実践および研究上必要な情報を収集する力を修得する。	○	◎	◎	○
臨床心理学			選必		臨床心理学講読演習Ⅱ	2	演習	論文講読演習を通じて、心理臨床の事例研究を具体的に理解し、実践と研究に必要な知識・能力を身につける。 併せて論文を批判的に読み込む力、文献資料を検索し、実践および研究上必要な情報を収集する力を修得する。	○	○	◎	○
臨床心理学			選必		発達心理学特論	2	講義	達心理学、特に個人差特性の形成と発達の基礎的知見について学ぶとともに、研究方法論について理解を深める。	◎	○	△	
臨床心理学			選必		認知心理学特論	2	講義	幅広い教養と深い知識、学問的な方法論、各領域を総合的に把握する力を涵養するために、自分が自分であるという感覚がどのように成立するのか最新の認知神経科学の視点を修得する。	◎	○	△	
臨床心理学			選必		精神医学特論（保険医療分野に関する理論と支援の展開）	2	講義・演習	精神障碍者の心理的援助に従事する者の実践に役立つ精神医学の基礎知識を理解できる。到達目標は①主要精神疾患の症状を理解できる。②薬物療法の必要性を説明できる。③精神障碍者が利用できる福祉サービスや法律について説明できる。	◎	△	○	◎
臨床心理学			選必		精神保健福祉特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2	講義	医療および保健・福祉の重なり合う領域における関連法制度や支援方法について整理・検討し、支援対象者を取り巻く環境、および課題の理解ならびに支援技術の基礎知識を習得する。	◎	△		◎
臨床心理学			選必		力動的アプローチ特論	1	講義	力動的アプローチによる支援技術の基礎知識を習得する。	◎	△		◎
臨床心理学			選必		行動療法特論	1	講義	認知行動療法介入（認知療法、応用行動分析などを含む）の基礎および、実践について専門的に習得する。	◎	△		◎
臨床心理学			選必		心理療法特論	1	講義	人間性心理学の心理療法論の実践について、Person-Centered Approach、 Focusing-Oriented Psychotheapy の具体的な応答を修得する。	◎	△		◎
臨床心理学			選必		家族心理臨床特論	1	講義	家族心理臨床における支援技術の基礎知識を習得する。	◎	△		◎
臨床心理学			選必		教育分野に関する理論と支援の展開	1	講義	教育分野における心理支援技術の基礎知識を習得する。	◎	△		◎
臨床心理学			選必		司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	1	講義	司法・犯罪分野における心理支援技術の基礎知識を習得する。	◎	△		◎

大区分	中区分	小区分	必修選択	科目NO	授業科目	単位	開講種別	授業目標	1- a	2- a	3-a	4-a
臨床心理学			選必		産業・労働分野に関する理論と支援の展開	1	講義	1）産業・労働分野での心理職の活動について説明できる。2）近年の労働関連法規や施策、職場ストレスのモデル、ストレスによる健康影響の研究について説明できる。3）ストレスチェックに基づくセルフケア、ラインケアの進め方、職場復帰支援の進め方、企業での教育研修、管理職向けのコンサルテーションの進め方などについて理解できる。	◎	△	○	◎
臨床心理学			選必		グループ・アプローチ演習Ⅰ	2	演習	この授業では、様々なグループアプローチについて、実際に「グループ体験」を通して、体験学習をおこなっていく。その中で、集団力動について理解し、自己理解や人間関係の基本的スキルについて体験的に理解できる。	◎	○	◎	○
臨床心理学			選必		グループ・アプローチ演習Ⅱ	2	演習	この授業では、様々なグループアプローチについて、実際に「グループ体験」を通して、体験学習をおこなっていく。その中で、集団力動について理解し、自己理解や人間関係の基本的スキルについて体験的に学び理解できる。	◎	○	◎	○
臨床人間科学			選必		ヒューマン・ケアと医療の倫理学	2	講義	ヒューマン・ケアと医療の領域の倫理学的な問題に焦点を当て、生命倫理学・環境倫理学が生まれた歴史的背景、論じられてきた基本的なトピック、問題を解決するための基本的な理論を理解する。	◎	○	△	◎
臨床人間科学			選必		臨床倫理学演習Ⅰ	2	演習	臨床倫理学の基本的な文献講読を通じて、臨床倫理学の現状と課題を修得する。	○	○	○	◎
臨床人間科学			選必		臨床倫理学演習Ⅱ	2	演習	臨床倫理学の基本的な文献講読を通じて、臨床倫理学の現状と課題を修得する。	○	○	○	◎
臨床人間科学			選必		社会倫理学	2	講義	倫理学の基本的な知識を身につけ、倫理的な議論を行う能力を修得する。	○	△	△	◎
臨床人間科学			選必		徳倫理学演習Ⅰ	2	演習	倫理学的な議論を行う能力を獲得する。	△	○	○	◎
臨床人間科学			選必		徳倫理学演習Ⅱ	2	演習	倫理学的な議論を行う能力を獲得する。	△	○	○	◎
臨床人間科学			選必		臨床社会心理学演習Ⅰ	2	演習	文献を批判的に読み込む力を涵養し、臨床人間科学の研究・実践に必要・有用と思われる、社会心理学や臨床社会心理学に関連する情報・知識を適切に理解・集約・応用・展開できるようになる。	◎	○	◎	○
臨床人間科学			選必		臨床社会心理学演習Ⅱ	2	演習	文献を批判的に読み込む力を涵養し、臨床人間科学の研究・実践に必要・有用と思われる、社会心理学や臨床社会心理学に関連する情報・知識を適切に理解・集約・応用・展開できるようになる。	◎	○	◎	○
臨床人間科学			選必		スポーツ健康科学特論	2	講義	子どもから後期高齢者まで、年代あるいは性差を考慮した健康とスポーツの科学的研究は極めて重要な研究課題となっていることを理解する。	◎	○	○	○
臨床人間科学			選必		健康運動科学演習Ⅰ	2	演習	スポーツおよび健康における研究テーマの文献を検討し、健康とスポーツの関係やその意味、身体運動と機能について、理解する。	◎	○	◎	○
臨床人間科学			選必		健康運動科学演習Ⅱ	2	演習	スポーツおよび健康における研究テーマの文献を検討し、健康とスポーツの関係やその意味、身体運動と機能について、理解する。	◎	○	◎	○

大区分	中区分	小区分	必修選択	科目NO	授業科目	単位	開講種別	授業目標	1- a	2- a	3-a	4-a
臨床人間科学			選必		障害学特論	2	講義	社会・文化の視点から従前の障害（者）へのまなざしを相対化する試みである障害学（ディスアビリティ・スタディーズ）などの議論を参照に、障害をめぐる不利益や活動の制限、諸困難は社会によって生み出されたものであるとする社会モデルの含意について検討した上で、社会モデルにたつ専門的支援のあり様について深い理解を知識を獲得する。	◎	△	○	◎
臨床人間科学			選必		対人支援の社会学	2	講義	メンタルヘルス領域におけるパラダイムシフトの含意について、専門性再考やセルフヘルプなどに照準しながら系統的な知識を獲得する。	◎	△	○	◎
臨床人間科学			選必		自己と社会変動論	2	講義・演習	自己、あるいは自己アイデンティティに関わる諸問題について、時代・社会状況の観点から検討しうる応用的な視点と知識を身につける。	◎	△	◎	◎
臨床人間科学			選必		教育臨床の社会学	2	講義・演習	主として社会学領域でなされた（広い意味での）「教育」現場に関する、あるいは少年期・青年期メンタルヘルスに関わる研究の講読と批判的検討を通して、受講生が自らの研究・臨床対象についてより柔軟に向き合える応用力を獲得する。	◎	△	◎	◎
臨床人間科学			選必		社会的不平等論演習Ⅰ	2	演習	社会階層・不平等研究とその関連領域論（教育、家族、労働等）における実証研究の読解を通じて、社会階層論の分析視角を理解するとともに計量社会学についてのリサーチ・リテラシーを修得する。	◎	○	○	◎
臨床人間科学			選必		社会的不平等論演習Ⅱ	2	演習	社会階層・不平等研究とその関連領域論（教育、家族、労働等）における実証研究の読解を通じて、社会階層論の分析視角を理解するとともに計量社会学についてのリサーチ・リテラシーを修得する。	◎	○	○	◎
臨床人間科学			選必		家族とジェンダーの社会学	2	演習	家族とジェンダーにかかわる現象、理論、研究アプローチ、諸問題について、調査研究の読解や議論を通じて、家族社会学の観点から検討する知識と力を修得する。	◎	△	○	◎
臨床人間科学			選必		リプロダクションの社会学	2	演習	リプロダクションとは、現象としては産み育てによって人口を置換する（re-production）ことを指すが、そのありようは社会によって大きく異なっている。本演習では、現代社会におけるリプロダクションの現状について社会学的に理解することを目標に、文献講読を通じて、理論と現象に関する知識を幅広く身につける。	◎	△	○	◎
臨床人間科学			選必		地域と共生の社会学	2	講義	「地域共生社会」や「多文化共生」が強調される現代社会の特質を理解し、差別や偏見が生成する社会システムを分析する視点を修得する。	◎	○	○	◎
臨床人間科学			選必		地域マネジメント演習Ⅰ	2	演習	「自治体消滅」や「地方創生」が強調される現代社会の特質を理解し、地域の社会資源を生かしつつ、「よそ者」を適度に配置した、内発的発展を遂げている具体的実践例を踏まえながら、地域マネジメントの方法論を開発する力を修得する。	○	○	◎	◎
臨床人間科学			選必		地域マネジメント演習Ⅱ	2	演習	地域社会の諸問題の中でも、特に多文化社会に関する諸課題である差別被害（心的外傷、被差別体験、暴力）に対する「回復」や「支援」の方法（ソーシャルワークやカウンセリング、コミュニティアプローチ）について、隣接領域（心理学、精神医学等）の成果も検討し、その方途について展望する力を修得する。	○	○	◎	◎
臨床人間科学			選必		スポーツプロモーション特論	2	講義	スポーツの主体性を担保することの意味について、歴史的に理解する。具体的には、「スポーツ振興」と「スポーツ推進」の違いを理解しながら、「文化としてのスポーツ」について理解を深める。	◎	△	△	○

大区分	中区分	小区分	必修選択	科目NO	授業科目	単位	開講種別	授業目標	1- a	2- a	3-a	4-a
臨床人間科学			選必		健康スポーツ社会学演習Ⅰ	2	演習	「文化としてのスポーツ」を推進することの意味や機能に基づきながら、健康・スポーツ活動の展開において期待される人間学的・社会学的理解を修得する。特に、スポーツ指導者のコア・コンピテンシーや持続可能なスポーツ集団・組織論の理解を深める。	◎	△	○	◎
臨床人間科学			選必		健康スポーツ社会学演習Ⅱ	2	演習	「文化としてのスポーツ」を推進することの意味や機能に基づきながら、健康・スポーツ活動の展開において期待される人間学的・社会学的理解を修得する。特に、スポーツ指導者のコア・コンピテンシーや持続可能なスポーツ集団・組織論の理解を深める。	◎	△	○	◎
特別演習			必修		臨床人間科学特別演習Ⅰ	2	演習	指導教員および副指導教員の指導をうけ、修士論文執筆又は特定の課題についての研究の遂行のための総合的な力量を身につける。	△	◎	◎	◎
特別演習			必修		臨床人間科学特別演習Ⅱ	2	演習	指導教員および副指導教員の指導をうけ、修士論文執筆又は特定の課題についての研究の遂行のための総合的な力量を身につける。	△	◎	◎	◎

■　令和３年度・令和４年度入学生用　カリキュラム・マップ　■

人文社会科学研究科　比較地域文化専攻

（令和3年1月12日更新）

学位	修士（文学）								ディプロマ・ポリシー（DP）			
付属情報	◎＝DP達成のために特に重要な事項、○＝DP達成のために重要な事項、△＝DP達成のために望ましい事項								DP1. 専門基礎能力	DP2. 研究等遂行能力	DP3. 汎用的能力	DP4. 社会への発信と貢献能力
大区分	中区分	小区分	必修選択	科目NO	授業科目	単位	開講種別	授業目標	1- a	2- a	3-a	4-a
総合講義			選必		社会変動と思想	2	講義	大学院での学習・研究のために、複数の分野にわたる幅広い教養と知識を身につける。	○	○	○	○
総合講義			選必		言語文化コミュニケーション論	2	講義	翻訳にはどのような困難があるか知ることで、異文化理解の根本に関わる問題について理解を深める。	○	○	○	○
総合講義			選必		日本文化事情	2	講義	大学院で学ぶ留学生が、日本文化の基層・表層に関するとらえ方を学び、日本を理解する手懸かりを得る。	○	○	○	○
研究法			選必		歴史・文化論研究法	2	演習	歴史・文化論コースにおける研究の手法について、実践的に習得する。併せて、自らの問題関心を明確にしながら研究計画をたて基本的な資料を検討し研究の基礎固めを行う。	○	○	○	○
研究法			選必		言語文化論研究法	2	演習	言語文化論コースで研究するための視座と方法について、基礎的な理解を身につける。	○	○	○	○
歴史・文化論			選必		古代ギリシアの思想と文化	2	講義	人文学のための基盤となる専門的知識と能力を身につける。	○	△		
歴史・文化論			選必		宗教と倫理	2	講義	授業で指定された文献を読解し、日本の思想についての知識を身につける。主に仏教や神道に関する文献を読む。発表と討論を通じて、文献の解釈の仕方を学ぶとともに思想への理解を深める。	◎			
歴史・文化論			選必		哲学・宗教演習Ⅰ	2	演習	授業で指定された文献を読解し、日本の思想についての知識を身につける。主に仏教や神道に関する文献を読む。発表と討論を通じて、文献の解釈の仕方を学ぶとともに思想への理解を深める。	◎			
歴史・文化論			選必		哲学・宗教演習Ⅱ	2	演習	授業で指定された文献を読解し、日本の思想についての知識を身につける。主に仏教や神道に関する文献を読む。発表と討論を通じて、文献の解釈の仕方を学ぶとともに思想への理解を深める。	◎			
歴史・文化論			選必		女性と生命	2	講義	医療の専門化・病院依存化の流れのなかで、18世紀・19世紀のイギリスについて、家庭内で施されていた予防や治療の役割、家庭薬や食事の役割、あるいは女性が果たしていた役割について理解を深める。	◎		○	

大区分	中区分	小区分	必修選択	科目NO	授業科目	単位	開講種別	授業目標	1- a	2- a	3-a	4-a
歴史・文化論			選必		女性と生命文化演習Ⅰ	2	演習	一般的イメージと、著作などから読み取ることができる人物像を思い描き、その差異を明確化し、説明できるようになる。		◎	○	
歴史・文化論			選必		女性と生命文化演習Ⅱ	2	演習	著作物の登場人物に関して書かれた伝記や研究書、研究論文を参照して、レポートや論文でその情報を適切に使うことができるようになる。		◎	○	
歴史・文化論			選必		社会主義圏における民族問題と文化変容	2	講義	研究指導教員の指導を受けながら、修士論文作成のための総合的な研究遂行能力を身につける。	◎	○	◎	○
歴史・文化論			選必		社会主義圏における民族誌論演習Ⅰ	2	演習	社会主義諸国(中国、旧ソ連、モンゴル人民共和国等)における民族文化と民族問題に関する歴史人類学的研究の方法と理論を理解する。	◎	○	◎	○
歴史・文化論			選必		社会主義圏における民族誌論演習Ⅱ	2	演習	社会主義諸国(中国、旧ソ連、モンゴル人民共和国等)における民族文化と民族問題に関する歴史人類学的研究の方法と理論を理解する。	◎	○	◎	○
歴史・文化論			選必		多文化社会論	2	講義	グローバル化する多文化社会で起こっている諸事を分析する視座を身につける。	○			○
歴史・文化論			選必		多文化社会論演習Ⅰ	2	演習	差異化と卓越化を考えてきたポピュラーカルチャー議論からアイデンティティや暴力、共生の論じ方を理解する。		○	○	○
歴史・文化論			選必		多文化社会論演習Ⅱ	2	演習	多文化社会論で学んだ視点を用いて、社会を微細な視点から捉え直すための手法を身につける。		○	○	○
歴史・文化論			選必		東アジア地域社会論	2	講義	東アジア、およびその周辺地域の歴史、社会、文化について論じた文献の精読をおこなう。東アジア地域において文化人類学研究、地域研究をおこなってゆくために必要な知識や理論を習得する。	◎	○	◎	○
歴史・文化論			選必		東アジア地域社会論演習Ⅰ	2	演習	①フィールドワークで得た資料を民族誌にまとめ、文化人類学の視点で理論分析する方法を修得する。②先行研究を適切にレビューし、研究テー マにそって研究史を整理する力を身につける。	◎	◎	○	◎
歴史・文化論			選必		東アジア地域社会論演習Ⅱ	2	演習	①フィールドワークで得た資料を民族誌にまとめ、文化人類学の視点で理論分析する方法を修得する。②先行研究を適切にレビューし、研究テー マにそって研究史を整理する力を身につける。	◎	◎	○	◎
歴史・文化論			選必		日本中世の環境と文化	2	講義	1.専門的な中世史研究の論文を読解し、研究上の課題を的確に理解する能力を得る。 2.研究史への理解に重点を置き、歴史学における過去の議論の積み重ねに対して理解を深める。 3.優れた論文の章節の組み立てに触れることで、論理的な構成力を身につける。	○	◎	○	△
歴史・文化論			選必		日本中世社会史演習Ⅰ	2	演習	1.中世史料の輪読を通じて、その読解能力を身につける。 2.静岡という地域の史料を読み解くなかで、そこから描き出される中世社会の像について理解を深める。	◎	△	○	

大区分	中区分	小区分	必修選択	科目NO	授業科目	単位	開講種別	授業目標	1- a	2- a	3-a	4-a
歴史・文化論			選必		日本中世社会史演習Ⅱ	2	演習	1.中世史料の輪読を通じて、その読解能力を身につける。 2.静岡という地域の史料を読み解くなかで、そこから描き出される中世社会の像について理解を深める。	◎	△	○	
歴史・文化論			選必		日本近世の法と社会	2	講義	近世史料の輪読を行い、深く読み込むことで、その史料からどのような意義・論点が引き出せるのか、その方法を習得する。	◎	◎	○	△
歴史・文化論			選必		日本近世史演習Ⅰ	2	演習	日本近世史における研究動向と方法論について学び、理解を深める。とくに、政治・権力と社会との関係を把握し、当該時期の特質を把握する力を身につける。	◎	◎	○	△
歴史・文化論			選必		日本近世史演習Ⅱ	2	演習	日本近世史における研究動向と方法論について学び、理解を深める。とくに、政治・権力と社会との関係を把握し、当該時期の特質を把握する力を身につける。	◎	◎	○	△
歴史・文化論			選必		近現代中国の社会と文化	2	講義	日本語または外国語で書かれた専門書や史料を通して近現代アジアの社会や文化に関する知識を得るとともに、研究報告やディスカッションのスキルを向上させる。	◎		○	○
歴史・文化論			選必		中国近現代史演習Ⅰ	2	演習	日本語または外国語で書かれた専門書や史料を通して近現代アジア史に関する知識を得るとともに、研究報告やディスカッションのスキルを向上させる。	◎		○	○
歴史・文化論			選必		中国近現代史演習Ⅱ	2	演習	日本語または外国語で書かれた専門書や史料を通して近現代アジア史に関する知識を得るとともに、研究報告やディスカッションのスキルを向上させる。	◎		○	○
歴史・文化論			選必		近代イギリスの社会と宗教	2	講義	日本語の歴史書を講読し、16-19世紀イギリスや近世・近代ヨーロッパの社会・宗教・文化などを総合的に習得し、近世史・近代史の特色を理解する。	◎	○	○	△
歴史・文化論			選必		近代イギリス史演習Ⅰ	2	演習	日本語の歴史書を講読し、宗教改革や絶対王政、市民革命をキーワードに、16-17世紀イギリスや近世・近代ヨーロッパの社会・宗教・文化を総合的に理解する。	○	◎	○	△
歴史・文化論			選必		近代イギリス史演習Ⅱ	2	演習	日本語の歴史書を講読し、名誉革命やアメリカ独立革命、国民国家をキーワードに、18-19世紀イギリスや近現代ヨーロッパの社会・宗教・文化を総合的に理解する。	○	◎	○	△
歴史・文化論			選必		中世ヨーロッパの文化と社会	2	講義	中世ヨーロッパの史資料の講読・調査・討論を通じて、中世ヨーロッパの社会と文化についての知識を習得する。	◎	◎	○	○
歴史・文化論			選必		中世ヨーロッパ史演習Ⅰ	2	演習	中世ヨーロッパの史資料の講読・調査・討論を通じて、中世ヨーロッパの社会と文化について読み解くスキルを習得する。	○	◎	◎	○
歴史・文化論			選必		中世ヨーロッパ史演習Ⅱ	2	演習	中世ヨーロッパの史資料の講読・調査・討論を通じて、中世ヨーロッパの社会と文化について読み解くスキルを習得する。	○	◎	◎	○

大区分	中区分	小区分	必修選択	科目NO	授業科目	単位	開講種別	授業目標	1- a	2- a	3-a	4-a
歴史・文化論			選必		弥生時代の文化と社会	2	講義	日本列島における農耕文化形成の特徴について概観することを通して、考古学的方法で文化・社会を研究することについての理解を深める。	○	○	○	△
歴史・文化論			選必		農耕文化論演習Ⅰ	2	演習	①考古学の資料における墓・古墳・墳墓などの構造とその地理的・年代的変化について理解する。②墓や祭祀遺構をめぐる遺構や遺物の検出・出土状況や製作・使用・廃棄にいたる過程の復元とそこでの人間や集団の行動との関係について理解する。③各自がテーマとする時代との比較から墓や儀礼の意味について理解を深める。	○	○	○	△
歴史・文化論			選必		農耕文化論演習Ⅱ	2	演習	①考古学の資料における墓・古墳・墳墓などの構造とその地理的・年代的変化について理解する。②墓や祭祀遺構をめぐる遺構や遺物の検出・出土状況や製作・使用・廃棄にいたる過程の復元とそこでの人間や集団の行動との関係について理解する。③各自がテーマとする時代との比較から墓や儀礼の意味について理解を深める。	○	○	○	△
歴史・文化論			選必		旧石器時代の文化と社会	2	講義	旧石器時代研究において適用されている様々な研究方法と事例研究の成果を概観することをとおして、先史社会に接近するための考古学的な研究方法について理解する。	○	○		
歴史・文化論			選必		先史文化論演習Ⅰ	2	演習	考古学の研究対象となる資料の特性を理解し、考古学の研究方法に関する理解を深める。	○	○		
歴史・文化論			選必		先史文化論演習Ⅱ	2	演習	考古学の研究対象となる資料の特性を理解し、考古学の研究方法に関する理解を深める。	○	○		
歴史・文化論			選必		東海地域の自然と文化	2	講義	地理的諸事象の広がりを静岡県を中心とした東海地域の事例から理解し、自然環境との関係において地域の暮らしを考察する能力を身につける。	◎	○		
歴史・文化論			選必		人文地理学演習Ⅰ	2	演習	ESD（持続可能な開発のための教育）の観点から、発展途上地域の諸課題（人口や環境、産業化、都市と農村の関係など）に関する学習内容の理解を深める。	◎	○		
歴史・文化論			選必		人文地理学演習Ⅱ	2	演習	ESD（持続可能な開発のための教育）の観点から、発展途上地域の諸課題（人口や環境、産業化、都市と農村の関係など）に関する学習を構成できるようになることを目指し、学習手法に関する理解を深める。		○	◎	◎
言語文化論			選必		日本近世言語文化研究	2	講義	江戸時代の様々な言語的表象を広く見渡すことで、日本近世という時空の特性について理解を深めるとともに、今・ここを考える視点を獲得する。	◎	○		
言語文化論			選必		日本近世メディア演習Ⅰ	2	演習	江戸時代の様々な書物に触れ、その特性について具体的に理解するとともに、そうした資料の扱い方を身につける。	○	○		
言語文化論			選必		日本近世メディア演習Ⅱ	2	演習	江戸時代の様々な書物に触れ、その特性について具体的に理解するとともに、そうした資料の扱い方を身につける。	○	○	○	

大区分	中区分	小区分	必修選択	科目NO	授業科目	単位	開講種別	授業目標	1- a	2- a	3-a	4-a
言語文化論			選必		近現代日本語文学・文化研究	2	講義	日本の「戦後文学」から「現代文学」に至る地平を検討する。文学/文化研究の基本となる知識および視座・方法としての批評理論を身につける。また、その知識や視座・方法（批評理論）をもとに文学／文化を対象とする初歩的な批評を表現し、伝達できるようになる。	○	○		
言語文化論			選必		近現代日本語文学・文化演習Ⅰ	2	演習	近現代日本語文学/文化の研究に必要な基本的な知識や理論、および調査、考察、分析、発表、討議などの基本的な技術や方法を身につける。	○	○		
言語文化論			選必		近現代日本語文学・文化演習Ⅱ	2	演習	近現代日本語文学/文化の研究に必要な基本的な知識や理論、および調査、考察、分析、発表、討議などの基本的な技術や方法を身につける。	○	○	○	
言語文化論			選必		日本近代文化テクスト研究	2	講義	◆ポストモダンの文芸批評について、背景となる現代思想を踏まえながら概要を理解する。 ◆上記の方法論を用いて、具体的な文学テクストを読解できるようになる。	○	○		
言語文化論			選必		ジェンダーの日本近代文学演習Ⅰ	2	演習	◆各テクストに内包されるジェンダー機制を剔抉し、言語化できるようになる。 ◆文学テクストを取り巻く時代状況を理解し、両者の葛藤ないしは相補性を説明できるようになる。	○	○		
言語文化論			選必		ジェンダーの日本近代文学演習Ⅱ	2	演習	◆各テクストに内包されるジェンダー機制を剔抉し、言語化できるようになる。 ◆文学テクストを取り巻く時代状況を理解し、両者の葛藤ないしは相補性を説明できるようになる。	○	○		
言語文化論			選必		中国古代文芸思想研究	2	講義	中国の古代文芸思想に対する通史的体系的な知識を修得し、文を生産し支配した中国知識人階級（士大夫階層）の世界観に対する理解を深める。	◎	○		
言語文化論			選必		中国古代文人演習Ⅰ	2	演習	中国の文人を研究するための理論と方法を学びながら、中国文学における陶淵明と白居易の文学について理解を深める。	○	◎		
言語文化論			選必		中国古代文人演習Ⅱ	2	演習	中国の文人を研究するための理論と方法を学びながら、中国文学における陶淵明と白居易の文学について理解を深める。	○	◎		
言語文化論			選必		中国近現代文芸思潮研究	2	講義	日中比較文学の視点から、中国近現代文芸思潮を捉え直して理解を深める。	○	○	○	○
言語文化論			選必		中国近現代文学演習Ⅰ	2	演習	現代中国文学の精読を通して、中国の国民性や文化心理を理解する。また、世界文学として現代中国文学がいかなる意味を持つのか理解を深める。	○	◎	○	○
言語文化論			選必		中国近現代文学演習Ⅱ	2	演習	現代中国文学の精読を通して、中国の国民性や文化心理を理解する。また、世界文学として現代中国文学がいかなる意味を持つのか理解を深める。	○	◎	○	○

大区分	中区分	小区分	必修選択	科目NO	授業科目	単位	開講種別	授業目標	1- a	2- a	3-a	4-a
言語文化論			選必		中世ヨーロッパ文化研究	2	講義	西洋中世の文化における古代ギリシャ・ローマの伝統の継承、イスラム文化の影響について、宗教と医学を通し修得する。	○	○	○	○
言語文化論			選必		中世英文学・図像学演習Ⅰ	2	演習	ヨーロッパの歴史・文化の根底にあるキリスト教の世界観を知るために中世イングランドで制作された写本のテクストと図像の読み解き方を修得する。	○	○	○	○
言語文化論			選必		中世英文学・図像学演習Ⅱ	2	演習	ヨーロッパの歴史・文化の根底にあるキリスト教の世界観への理解を深めるために、大陸で制作された写本のテクストと図像の読み解き方を修得する。	○	○	○	○
言語文化論			選必		アメリカ文学研究	2	講義	To develop, at a high level, the ability to read, analyze, and discuss importants works of American fiction. To develop an understanding of slavery in American history and racial prejudice and discrimination in American fiction and culture.	○	○		○
言語文化論			選必		アメリカ近現代小説演習Ⅰ	2	演習	To develop, at a high level, the ability to read, analyze, and discuss important works of American fiction. To develop an understanding of the youth culture and the generation gap in post-WWII America.	○	○		○
言語文化論			選必		アメリカ近現代小説演習Ⅱ	2	演習	To develop, at a high level, the ability to read, analyze, and discuss important works of American fiction. To develop an understanding of the Native American experience in American fiction.	○	○		○
言語文化論			選必		現代ドイツ文学研究	2	講義	文学研究の入門書を取り上げ、その内容を読解しながら、文学作品の考察に取り組む際の基本的な考え方への足掛かりをつかむ。	○	○		
言語文化論			選必		ドイツ小説論演習Ⅰ	2	演習	現代ドイツ語圏文学の重要作家による作品を取り上げ、その語り口・文体に注目しつつ読解することで、ドイツ語による現代小説の特質を理解する。		○	○	
言語文化論			選必		ドイツ小説論演習Ⅱ	2	演習	現代ドイツ語圏文学の重要作家による作品を取り上げ、その語り口・文体に注目しつつ読解することで、ドイツ語による現代小説の特質を理解する。		○	○	
言語文化論			選必		フランス近現代の芸術と文化	2	講義	フランス近現代における作家と芸術作品との出会いの数々について、フランス語文献の精読や芸術作品の視聴を通し、理解を深める。	○	○		
言語文化論			選必		２０世紀フランス文学演習Ⅰ	2	演習	ポール・ヴァレリーPaul Valéry（1871－1945）の 《Notion générale de l'art》を精読し、「芸術」の概念について理解を深めると共に、着実なフランス語の読解力を身につける。		○	○	

大区分	中区分	小区分	必修選択	科目NO	授業科目	単位	開講種別	授業目標	1- a	2- a	3-a	4-a
言語文化論			選必		２０世紀フランス文学演習Ⅱ	2	演習	ポール・ヴァレリーPaul Valéry（1871－1945）の《Degas Danse Dessin》を精読し、芸術の諸問題について理解を深める共に、着実なフランス語の読解力を身につける。		○	○	
言語文化論			選必		音声学・音韻論研究	2	講義	音声学の基礎とその応用力を身につけるとともに、音韻分析の方法を修得する。	◎	○		
言語文化論			選必		生成統語論	2	講義	様々な言語現象を理論的に分析する手法を修得する。	◎	○		
言語文化論			選必		英語構造論演習Ⅰ	2	演習	様々な言語現象を理論的に分析する手法を修得する。	◎	○		
言語文化論			選必		英語構造論演習Ⅱ	2	演習	様々な言語現象を理論的に分析する手法を修得する。	◎	◎		
言語文化論			選必		中国語学基礎論	2	講義	現代中国語諸方言分布や現状を把握しながら、類型的に方言の音韻や文法について修得する。	◎	△	○	△
言語文化論			選必		中国語史学演習Ⅰ	2	演習	現代中国語と方言の差異を把握し、中国語の発展や変化について修得する。	△	◎	○	△
言語文化論			選必		中国語史学演習Ⅱ	2	演習	現代中国語と方言の差異を把握した上で、諸外国における漢字音と合わせ、中国語の歴史的な状況を修得する。	△	◎	○	△
言語文化論			選必		現代ドイツ語文法論・意味論研究	2	講義	ドイツ語学・言語学（日独対照，英独対照なども含む）の領域において，自らの研究テーマに基づいて調査・研究を進展させる。現代ドイツ語の文法・語彙をドイツ語の使用実態に基づき記述できるようになる。	○	○	△	
言語文化論			選必		現代ドイツ語学演習Ⅰ	2	演習	ドイツ語学における個別テーマについて理解を深めるとともに，個々の問題を，ドイツ語全体の体系の中で位置づけ，関連づけて捉える力を身につける。	○	○	△	
言語文化論			選必		現代ドイツ語学演習Ⅱ	2	演習	ドイツ語学における個別テーマについて理解を深めるとともに，個々の問題を，ドイツ語全体の体系の中で位置づけ，関連づけて捉える力を身につける。	○	○	△	
言語文化論			選必		対照言語学研究	2	講義	日本語を中心として、文法、音韻、意味、及び、言語の裏にある文化に注目して、受講者の勉強した外国語のそれらのトピックの理解を深める。	◎	◎	○	△
言語文化論			選必		言語調査論演習Ⅰ	2	演習	学部における言語学概論、音声学その他の授業をもとにして言語調査の実際的な訓練を行い、その結果を分析する技術を身につける。	◎	◎	○	△

大区分	中区分	小区分	必修選択	科目NO	授業科目	単位	開講種別	授業目標	1- a	2- a	3-a	4-a
言語文化論			選必		言語調査論演習Ⅱ	2	演習	学部における言語学概論、音声学その他の授業をもとにして言語調査の実際的な訓練を行い、その結果を分析する技術を身につける。	◎	◎	○	△
言語文化論			選必		日独語対照研究	2	講義	各自の関心に合わせて、日本語とドイツ語について書かれた論文を読み、論文内容や研究方法について受講生と教員でディスカッションをしながら検討することを通じて、両言語についての言語学的な特徴や違いについての知識を修得すだけでなく、論文に書かれている研究・調査方法についても各自の研究への応用可能性を考えながら能動的に理解できる。	○		△	
言語文化論			選必		パソコン利用の言語研究演習Ⅰ	2	演習	テキストファイルの言語データを各自の研究の補助手段として活用する方法の習得が最終目標である。この授業は言語学的調査を前提にしており、エクセルの文字列操作関数や検索の能率を飛躍的に高める正規表現の学習、コマンドプロンプトの利用、グーグルフォームを使った簡単なアンケートの実施、アンケート結果のエクセルでの集計などを修得する。		○	△	
言語文化論			選必		パソコン利用の言語研究演習Ⅱ	2	演習	テキストファイルの言語データを各自の研究の補助手段として活用する方法の習得が最終目標である。この授業は言語学的調査を前提にしており、エクセルの文字列操作関数や検索の能率を飛躍的に高める正規表現の学習、コマンドプロンプトの利用、グーグルフォームを使った簡単なアンケートの実施、アンケート結果のエクセルでの集計などを修得する。		○	△	
言語文化論			選必		日本語学研究法	2	講義	日本語学を研究するうえで、テーマ設定、調査の準備・方法、文献検索、データの分析や統計的な処理・検定、論文の書き方執筆などを身につける。	◎	○		
言語文化論			選必		日本語史学演習Ⅰ	2	演習	『金光明最勝王経音義』所載の「いろは」や五十音図の解読を通して、日本語の音節構造、音韻史、音韻と文字の関係、アクセント史、日本漢字音など、日本語史のあらゆるテーマの中から自ら課題を見出し、課題解決できる。		○	◎	
言語文化論			選必		日本語史学演習Ⅱ	2	演習	韻学書や悉曇章を資料として、日本語のアクセント史や日本漢字音に関する様々なテーマの中から自ら課題を見出し、課題解決できる。		○	◎	
言語文化論			選必		言語と性	2	講義	ことばが社会の関係、特にジェンダー、とのかかわりについて、文献を読み進めつつ、具体例を集めながら、理解を深める。			◎	○
言語文化論			選必		社会言語学演習Ⅰ	2	演習	マイノリティに注目し、ことばを通して、マイノリティがどう周縁化されているのか、また、言語表現によって、マイノリティがどう周縁化されているのか、文献を読みつつ、具体例を集めながら、理解を深める。	◎		○	
言語文化論			選必		社会言語学演習Ⅱ	2	演習	このクラスでは、日本語の標準語イデオロギーについて、方言とのかかわりから、意識調査などを通して、どのような状況になっているのか、また、具体的にどう使われているのかという観点から、その意識と使用実態をみながら、ことばと意識の関係について、議論を深める。	◎		○	
言語文化論			選必		言語変化と言語理論	2	講義	英語を中心とした言語表現の通時的変化を対象として、その原因、過程、予測される結果等を理論的に分析する手法を修得する。	○	○	△	

大区分	中区分	小区分	必修選択	科目NO	授業科目	単位	開講種別	授業目標	1- a	2- a	3-a	4-a
言語文化論			選必		現代英語学演習Ⅰ	2	演習	英語で書かれた専門書の読解演習を通して、英語学（意味論・語用論）分野の専門書を読み解く力を伸ばすとともに、当該分野の最先端の研究成果に関する知識を深める。		○	△	
言語文化論			選必		現代英語学演習Ⅱ	2	演習	英語で書かれた専門書の読解演習を通して、英語学（意味論・語用論）分野の専門書を読み解く力を伸ばすとともに、当該分野の最先端の研究成果に関する知識を深める。		○	△	
言語文化論			選必		北米インディアン諸語研究	2	講義	北アメリカに数多く存在する先住民諸言語の系統的多様性と類型的多様性を概観することにより，言語のみせる幅広さへの理解を深めるとともに，受講生が研究対象とする言語を相対的に捉える方法を修得する。	◎	○		
言語文化論			選必		言語類型論演習Ⅰ	2	演習	通言語的にみられる様々な事象を取り上げ，受講生が研究対象とする言語を記述する際に必要とされる視点，アプローチの方法を修得する。		○	◎	
言語文化論			選必		言語類型論演習Ⅱ	2	演習	通言語的にみられる様々な事象を取り上げ，受講生が研究対象とする言語を記述する際に必要とされる視点，アプローチの方法を修得する。		○	◎	
言語文化論			選必		日韓比較文化論	2	講義	朝鮮研究の代表的な古典である『三国史記』『三国遺事』についての概要的な知識を修得する。そのうえ、特徴的な神話、伝説、昔話を具体的に取り上げ、それが持つ意味を東アジアの文学・文化の観点で理解する力を修得する。	○	○	○	
言語文化論			選必		日韓比較文学論演習Ⅰ	2	演習	『三国史記』『三国遺事』は朝鮮研究の基本的なテキストと言える。講義によって培われた理解力を土台にしてそれを自ら解釈し、さらに東アジアの観点から比較する力を修得する。	○	○	○	
言語文化論			選必		日韓比較文学論演習Ⅱ	2	演習	『三国史記』『三国遺事』は朝鮮研究の基本的なテキストと言える。講義によって培われた理解力を土台にしてそれを自ら解釈し、さらに東アジアの観点から比較する力を修得する。	○	○	○	
言語文化論			選必		スペイン・ラテンアメリカ文化研究	2	講義	記号学的な観点から、歴史や社会を考察する力を身につける。	○	○	○	
言語文化論			選必		比較文化史演習Ⅰ	2	演習	現代大衆社会とその文化についての批評的枠組みを修得する。	○	○	○	
言語文化論			選必		比較文化史演習Ⅱ	2	演習	ポストコロニアリズム批評で重要な意義を持っているオリエンタリズムという概念を修得する。	○	○	○	
言語文化論			選必		スペイン文化研究	2	講義	食は人間の営みに欠かすことができず、各地域の文化において、常に語られ叙述されている。この授業では、スペインの食文化を中心に、美食の都が構築されるまでにどのように食材間での戦いがあり、表象され、叙述されてきたのか、文学文化の側面からアプローチし、ヨーロッパ文化への理解を深める。	○	○	○	

大区分	中区分	小区分	必修選択	科目NO	授業科目	単位	開講種別	授業目標	1- a	2- a	3-a	4-a
言語文化論			選必		ヨーロッパ比較文化史演習Ⅰ	2	演習	世界遺産サンティアゴ巡礼路の形成についての英語文献を読み、ヨーロッパ文化の枢要について理解を深める。	○	○	○	
言語文化論			選必		ヨーロッパ比較文化史演習Ⅱ	2	演習	スペインの作曲家でありピアニストでもありまた教育者でもあるエンリケ・グラナドスについて、その生涯、モデルニスモとの関係、ゴジェスカスの発表、そして教育者としての立場についてのスペイン語の論考を読んでいき、内容を発表することで理解を深める。	○	○	○	
特別演習			必修		比較地域文化特別演習Ⅰ	2	演習	指導教員の指導を受けながら、修士論文作成、または特定の課題についての研究遂行のために必要な総合的な能力を身につける。	○	◎	○	○
特別演習			必修		比較地域文化特別演習Ⅱ	2	演習	指導教員の指導を受けながら、修士論文作成、または特定の課題についての研究遂行のために必要な総合的な能力を身につける。	○	◎	○	○

■　令和３年度・令和４年度入学生用　カリキュラム・マップ　■

人文社会科学研究科　経済専攻

（令和3年1月12日更新）

学位	修士（経済学）								ディプロマ・ポリシー（DP）			
付属情報	◎＝DP達成のために特に重要な事項、○＝DP達成のために重要な事項、△＝DP達成のために望ましい事項								DP1. 専門基礎能力	DP2. 研究等遂行能力	DP3. 汎用的能力	DP4. 社会への発信と貢献能力
大区分	中区分	小区分	必修選択	科目NO	授業科目	単位	開講種別	授業目標	1- a	2- a	3-a	4-a
研究法			選必		国際経営コース基礎講義Ⅰ	2	演習	国際経営に関わる基礎理論を学ぶとともに、研究方法および論文の作成方法を学ぶ。	◎	◎	○	△
研究法			選必		国際経営コース基礎講義Ⅱ	2	演習	国際経営に関わる研究動向を学ぶとともに、研究方法および論文の作成方法を学ぶ。	◎	◎	○	△
研究法			選必		地域公共政策コース基礎講義Ⅰ	2	演習	地域公共政策に関わる基礎理論を学ぶとともに、研究方法および論文の作成方法を学ぶ。	◎	◎	○	△
研究法			選必		地域公共政策コース基礎講義Ⅱ	2	演習	地域公共政策に関わる研究動向を学ぶとともに、研究方法および論文の作成方法を学ぶ。	◎	◎	○	△
国際経営			選必		企業情報システム	2	講義	前半は、学生がMIS（経営情報システム）論に関する基礎的知識と学説展開の概要を習得する。後半は、近年の企業情報システムの事例を素材として、MISの今日的課題を理解する。	◎	○	○	△
国際経営			選必		企業情報システム演習Ⅰ	2	演習	現代企業におけるICT（情報通信技術）利用の実際について、ＭＩＳ論の学説的展開の視点から理解する。とくに、情報ネットワークの普及が企業経営や組織、ビジネスプロセスに与える影響について具体例を採り上げて理解する。	○	○	◎	○
国際経営			選必		企業情報システム演習Ⅱ	2	演習	最新のICT（情報通信技術）が企業経営や経済社会に与える影響について、理解する。	○	○	◎	○
国際経営			選必		経営戦略論	2	講義	経営戦略論の基本的な概念や理論について再確認するとともに、経営戦略の分析ツールについて、その考え方やロジックを理解した上で習得する。	◎	◎	◎	△
国際経営			選必		経営戦略論演習Ⅰ	2	演習	企業の戦略について、経営戦略のレベルに焦点に当て、どのような経営戦略が優れた戦略であるといえるのか。経営戦略を構想するさいにその背後にある（べき）論理について理解する。	◎	◎	○	△
国際経営			選必		経営戦略論演習Ⅱ	2	演習	企業の戦略について、本演習では競争戦略のレベルに焦点に当て取り上げる。どのような戦略が優れた競争戦略であるといえるのか、その条件について理解する。	◎	○	◎	△
国際経営			選必		マーケティング戦略	2	講義	修士課程でマーケティングを研究するために必要となる基礎理論を習得する	◎	○	○	△

大区分	中区分	小区分	必修選択	科目NO	授業科目	単位	開講種別	授業目標	1- a	2- a	3-a	4-a
国際経営			選必		マーケティング演習Ⅰ	2	演習	マーケティングに関する最近の研究動向を知るとともに、研究の進め方および論文の書き方を身に付ける。	◎	◎	◎	○
国際経営			選必		マーケティング演習Ⅱ	2	演習	マーケティングに関する最近の研究動向を知るとともに、研究の進め方および論文の書き方を身に付ける。	◎	◎	◎	○
国際経営			選必		市場経済と規制	2	講義	経済学および経営学における企業理論の基礎理論を習得する。	◎	○	○	○
国際経営			選必		市場経済論演習Ⅰ	2	実習	企業の社会的責任論、コーポレートガバナンス論、企業の環境経営などの基礎概念を修得する。	◎	○	○	◎
国際経営			選必		市場経済論演習Ⅱ	2	実習	社会的企業という新しい概念を学ぶことにより、企業と社会との適切な関わり方のあり方を修得する。	◎	○	○	◎
国際経営			選必		計量経済学	2	講義	実証的経済分析に必要な計量経済学の基礎を学び，経済統計と経済モデルをもとに統計的推論を行えるようになる。	△	○	◎	△
国際経営			選必		計量経済学演習Ⅰ	2	演習	計量経済学や産業連関分析を用いた実証的経済分析の応用例のサーベイと実際の作業を行い，経済統計と経済モデルをもとに定量分析を行えるようになる。	△	○	◎	△
国際経営			選必		計量経済学演習Ⅱ	2	演習	計量経済学や産業連関分析を用いた実証的経済分析の応用例のサーベイと実際の作業を行えるようになる。	△	○	◎	△
国際経営			選必		会計学	2	講義	第一に、会計学に関する専門的でより高度な知識を身に付ける、第二に、会計学をめぐる近年の動向および諸問題について理解を深める。	◎	△	○	△
国際経営			選必		会計学演習Ⅰ	2	演習	会計の役割として市場関係者に向けての会計情報の提供という観点から、輪読を通して財務報告の在り方自体を深く理解する。	◎	◎	△	△
国際経営			選必		会計学演習Ⅱ	2	演習	会計の役割として市場関係者に向けての会計情報の提供という観点から、第一に、会計学に関する専門的でより高度な知識を身に付ける、第二に、会計学をめぐる近年の動向および諸問題について理解を深める。	◎	◎	△	△
国際経営			選必		税務会計論	2	講義	国際財務報告基準とのコンバージェンスにかかわる企業会計基準の設定・改正に対するわが国税務会計の対応・基本的な考え方について理解する。	◎	○	△	△
国際経営			選必		税務会計論演習Ⅰ	2	演習	課税所得計算と財務諸表の利益計算の相違を把握し、それがもたらすさまざまな問題を取り上げ、税計算と会計計算の関係を理解する。	◎	◎	△	△
国際経営			選必		税務会計論演習Ⅱ	2	演習	課税所得計算の様式の相違を把握し，次いで国際税務領域の基本問題を理解する．	◎	○	△	△

大区分	中区分	小区分	必修選択	科目NO	授業科目	単位	開講種別	授業目標	1- a	2- a	3-a	4-a
国際経営			選必		経済情報システム	2	講義	本講義では、情報とゲームの理論について初めて学習する受講生を前提として、相互依存関係にある経済・経営における意思決定、さらに社会科学全般における人間関係の解決策としてのゲームの理論の基本について理解する。	○	○	○	△
国際経営			選必		経済情報論演習Ⅰ	2	演習	相互依存的な経済・経営の意思決定、さらに社会科学全般における人間関係の解決策等に関する学術論文・専門書を理解し、整理したうえで、残された課題を発見できる。	○	○	○	△
国際経営			選必		経済情報論演習Ⅱ	2	演習	情報とゲームの理論の中級的内容の理解と、意思決定における統計分析の理解を目標とする。	○	○	○	△
国際経営			選必		多国籍銀行論	2	講義	国際金融の動向を踏まえながら、銀行のあり方について理解する。	○	○	○	○
国際経営			選必		多国籍銀行論演習Ⅰ	2	演習	国境を越えた金融活動（多国籍銀行）の規制監督の国際的展開を学ぶことで、健全な金融システムの在り方について理解する	○	○	○	○
国際経営			選必		多国籍銀行論演習Ⅱ	2	演習	国境を越えた金融活動（多国籍銀行）の規制監督の国際的展開を学ぶことで、健全な金融システムの在り方について理解する	○	○	○	○
国際経営			選必		アジア経済論	2	講義	アジアのイノベーションの活性化を通して、現代アジア経済を見る目と考える力を身につける。	◎	◎	○	○
国際経営			選必		アジア経済論演習Ⅰ	2	演習	グローバル化が急速に進む中で、それに伴う様々な問題に直面し、その解決にBOPビジネスのソーシャルイノベーションがいかなる役割を果たしたか、またBOP市場における日本企業が果たすべき役割とは何か、について理解する。	○	◎	◎	○
国際経営			選必		アジア経済論演習Ⅱ	2	演習	グローバル化が急速に進む中で、それに伴う様々な問題に直面し、その解決にBOPビジネスのソーシャルイノベーションがいかなる役割を果たしたか、またBOP市場における日本企業が果たすべき役割とは何か、について理解する。	○	◎	◎	○
国際経営			選必		国際貿易論	2	講義	国際貿易の理論を身につけ、国際社会で起こっている問題を論理的に分析する能力を身につける。	○	◎	○	△
国際経営			選必		経済発展論演習Ⅰ	2	演習	開発経済学では定評のあるテキストを用いて開発経済学が対象としているものを知り、その基礎理論を身につけ、途上国が豊かになるためには何をしなければならないかを理解する。	○	◎	○	△
国際経営			選必		経済発展論演習Ⅱ	2	演習	開発経済学では定評のあるテキストを用いて開発経済学が対象としているものを知り、その基礎理論を身につけ、途上国が豊かになるためには何をしなければならないかを理解する。	○	◎	○	△
国際経営			選必		マクロ経済動学	2	講義	動学マクロ経済学に関する基本的なフレームワークを習得する。	◎	○	△	△

大区分	中区分	小区分	必修選択	科目NO	授業科目	単位	開講種別	授業目標	1- a	2- a	3-a	4-a
国際経営			選必		経済成長論演習Ⅰ	2	演習	主に経済成長理論および関連する分野で修士論文を執筆予定である大学院生を対象として、定評のある文献あるいは論文を読みこなせるようになる。	◎	◎	◎	○
国際経営			選必		経済成長論演習Ⅱ	2	演習	主に経済成長理論および関連する分野で修士論文を執筆予定である大学院生を対象として、定評のある文献あるいは論文を読みこなせるようになる。	◎	◎	◎	○
国際経営			選必		ベンチャー企業論	2	講義	静岡県内外のベンチャー企業経営者を講師に招き、ビジネスを通してどのように地方創生に貢献しているかを論じてもらい、社会的知識を修得し、キャリアを形成する。	○	△	○	◎
地域公共政策			選必		経済統計分析	2	講義	経済分野を中心とする公的統計並びにその分析方法をめぐる現代のさまざまな問題点について理解する。	◎	○		○
地域公共政策			選必		統計学演習Ⅰ	2	演習	現代統計学のさまざまな分野について理解を深める。		◎	○	△
地域公共政策			選必		統計学演習Ⅱ	2	演習	現代統計学のさまざまな分野について理解を深める。		◎	◎	△
地域公共政策			選必		政策シミュレーション論	2	講義	政策評価の分析ツール（産業連関分析や一般均衡分析）の基礎理論を理解し，基本的な分析方法を身に着ける。	◎	○	○	○
地域公共政策			選必		政策シミュレーション演習Ⅰ	2	演習	産業連関分析などの分析ツールを用いた応用事例の最新動向を把握するとともに，具体的な事例を取り上げ，実際の作業を行い，産業連関モデルによる実際の政策への応用分析ができるようになる。	○	○	◎	○
地域公共政策			選必		政策シミュレーション演習Ⅱ	2	演習	産業連関分析などの分析ツールを用いた応用事例の最新動向を把握するとともに，具体的な事例を取り上げ，実際の作業を行い，産業連関モデルによる実際の政策への応用分析ができるようになる。	○	○	◎	○
地域公共政策			選必		経済政策システム	2	講義	経済・産業・政策に関する研究書、研究論文を素材にして日本における経済政策の特質の形成過程を理解する。	○	◎	○	△
地域公共政策			選必		経済政策演習Ⅰ	2	演習	日本の経済政策に関わる事項に理解を深める	○	○	△	△
地域公共政策			選必		経済政策演習Ⅱ	2	演習	高度成長期から現在までの日本における経済政策を理解する	○	○	△	△
地域公共政策			選必		都市経済学	2	講義	この授業では、都市経済学に関する標準的な英文テキストを用いて、とくに住宅に関して経済理論を応用する方法を身につける。	○	△	○	△
地域公共政策			選必		公共政策演習Ⅰ	2	演習	ドイツの社会的市場経済(Soziale Marktwirtschaft)に関する政策思想および政策構想について学ぶことにより、経済政策の思想的基盤および総合的な政策構想の重要性について理解を深めることを目標とする。	△	△	○	○

大区分	中区分	小区分	必修選択	科目NO	授業科目	単位	開講種別	授業目標	1- a	2- a	3-a	4-a
地域公共政策			選必		公共政策演習Ⅱ	2	演習	ドイツの社会的市場経済(Soziale Marktwirtschaft)に関する政策思想および政策構想について学ぶことにより、経済政策の思想的基盤および総合的な政策構想の重要性について理解を深めることを目標とする。	△	△	○	○
地域公共政策			選必		都市と地域の経済学	2	講義	空間（距離）が明示的に意味を持つ状況でのプレイヤー間の競争の分析について学びます。市場での取引において、戦略的な相互依存関係と交通費用がもたらす帰結について理論的理解を深めることを目標とします。	◎	◎	○	△
地域公共政策			選必		空間経済学演習Ⅰ	2	演習	空間経済学に関する論文の講読を通じて、当該分野の研究について理解する。	○	◎	◎	△
地域公共政策			選必		空間経済学演習Ⅱ	2	演習	空間経済学に関する基礎的な論文の講読を通じて、当該分野の論文の読解力を身につける。	◎	◎	○	△
地域公共政策			選必		自治体財政論	2	講義	国の財政と自治体財政についての基本問題や改革課題に関する専門的な知識を身につけることを目標とする。	○	◎	○	◎
地域公共政策			選必		政府間財政関係演習Ⅰ	2	演習	国と地方における財政の現状、国と地方の財政関係に関して、日本を中心に国際比較を交えながら理解を深める。今後の財政のあり方や分権型福祉社会の展望について議論する能力を身につけることを目標とする。	○	◎	○	◎
地域公共政策			選必		政府間財政関係演習Ⅱ	2	演習	国や地方財政の現状について、国と地方の財政関係に関する国際比較などを通じて理解を深め、今後の分権型福祉社会の展望や改革課題について検討する能力を身につけることを目標とする。	○	◎	○	◎
地域公共政策			選必		地域政策論	2	講義	地域政策の原理を考えるための基礎的な知識と理論・概念を習得することを通じて、自身で地域づくりや地域政策の現状ならびに今後を検討することができるための視点を得ることを目標とする。	◎	○	○	△
地域公共政策			選必		地域政策分析演習Ⅰ	2	演習	地域政策を議論するテキストを読み、地域のデータや政策の情報を検討することを通じて、地域ならびに地域政策の知識と政策分析の視点を得ることを目標とする。	○	◎	○	△
地域公共政策			選必		地域政策分析演習Ⅱ	2	演習	地域及び地域政策の実態を分析して今後の地域を議論するテキストを読み、政策のデータや情報を収集して地域政策を検討することで、政策分析ができるようになることを目標とする。	○	○	◎	△
地域公共政策			選必		現代日本経済社会論	2	講義	比較制度経済学に対する基礎的な知識とそれにもとづく計量的な分析手法を理解する。その上で、日本経済を中心としたとアジア経済、先進資本主義経済に対して適用された比較制度分析の結果を理解する能力、またそれを批判的に検討する力をを身につける。	○	◎	△	△
地域公共政策			選必		現代日本経済社会論演習Ⅰ	2	演習	修士論文作成に向けて既存の研究文献を読むこなす能力を身につける。その上で既存の研究を批判的に検討し、再構成する能力を習得する。	◎	○	△	△
地域公共政策			選必		現代日本経済社会論演習Ⅱ	2	演習	修士論文を作成するために、既存の研究を批判的に検討した上で、修士論文の基本的なアウトラインを作成し、研究課題・目的および分析方法を確定する。あわせて修士論文執筆にあたって必要なデータを収集し、論文の仮説を検証することができるようになる。	◎	○	△	△

大区分	中区分	小区分	必修選択	科目NO	授業科目	単位	開講種別	授業目標	1- a	2- a	3-a	4-a
地域公共政策			選必		地域統合論	2	講義	ヨーロッパにおける経済統合の理論と実態について理解する.	◎	○	○	△
地域公共政策			選必		地域統合論演習Ⅰ	2	演習	2009年ギリシャ・ユーロ危機に始まるＥＵの危機的状況について，理論的・実証的に理解できる.	○	◎	○	△
地域公共政策			選必		地域統合論演習Ⅱ	2	演習	2009年から始まるユーロ危機について，理論的・実証的に検証することができるようになる.	○	○	◎	△
地域公共政策			選必		環境政策論	2	講義	受講生が、次世代の環境経営モデルとして世界的に注目されているCSV（共有価値の創造）について、その基本的な考え方と実践企業例について理解できるようになる	◎	△	△	○
地域公共政策			選必		環境政策論演習Ⅰ	2	演習	環境問題に取り組んでいく上で必要となる基礎的な知識や考え方を習得するとともに、それらの解決への道筋について理解を深めることを目標とする。	◎	△	△	○
地域公共政策			選必		環境政策論演習Ⅱ	2	演習	環境経済学・環境政策に関連するテーマでの修士論文の執筆において、質の高い論文を完成できるようになる。	○	◎	◎	△
地域公共政策			選必		財政学	2	講義	財政学を初めて（本格的に）学ぶ人を対象に，財政学の学問領域のうち租税論に焦点を当て，わが国の税制の仕組みと現状を理解するとともに，租税論の理論や研究手法を修得することを目標とする。	◎	◎	○	△
地域公共政策			選必		財政学演習Ⅰ	2	演習	この授業の目標は，財政学分野で修士論文の執筆を予定している大学院生を対象に，専門論文を読みこなすための諸能力や研究手法を会得することと修士論文作成に向けての問題意識を培うことである。	○	◎	◎	○
地域公共政策			選必		財政学演習Ⅱ	2	演習	この授業の目標は，財政学分野で修士論文の執筆を予定している大学院生を対象に，専門論文を読みこなすための諸能力や研究手法を会得することと修士論文作成に向けての問題意識を培うことである。	○	◎	◎	○
地域公共政策			選必		現代産業論	2	講義	企業および産業に関する理論的知識を身につけることで、企業・産業を体系的に分析する力を修得する。とりわけ、地域における企業・産業を分析するための理論について理解を深める。	◎	△	○	△
地域公共政策			選必		現代産業論演習Ⅰ	2	演習	本演習では、地域における社会経済的環境と企業・産業の相互作用関係に焦点をあて、社会経済を構成する一つのアクターとして企業・産業を分析する理論と手段を身につける。	◎	◎	○	△
地域公共政策			選必		現代産業論演習Ⅱ	2	演習	本演習では、地域産業の一つのタイプである産地型産業に焦点をあて、国内外における事例の先行研究を学びながら、産地型産業に関する多様な分析視角を身につける。	△	○	◎	○
地域公共政策			選必		租税法Ⅰ	2	講義	国民にとってもっとも身近な税法であり、一納税者としてその権利を行使するためにも必要な，所得税法を正しく理解する.	◎	○	○	○

大区分	中区分	小区分	必修選択	科目NO	授業科目	単位	開講種別	授業目標	1- a	2- a	3-a	4-a
地域公共政策			選必		租税法Ⅱ	2	講義	具体的な事例を通して正しく相続税法を理解する.	◎	○	○	○
地域公共政策			選必		社会保障論	2	講義	社会保障の歴史、理論及び諸政策について、日本の制度を中心に理解を深めることを目標とする。	◎	○	◎	○
地域公共政策			選必		社会保障論演習Ⅰ	2	演習	社会保障の歴史、理論及び諸政策について、国際比較を通じて理解を深めることを目標とする。	◎	○	◎	○
地域公共政策			選必		社会保障論演習Ⅱ	2	演習	社会保障の歴史、理論及び諸政策について、国際比較を通じて理解を深めることを目標とする。	◎	○	◎	○
地域公共政策			選必		地域経営論	2	講義	地域経営の理論及び諸政策について、日本における地域の実践的事例を踏まえながら、理解を深めることを目標とする。	◎	○	○	◎
地域公共政策			選必		地域経営論演習Ⅰ	2	演習	地域経営の理論及び諸政策について、欧米と日本の国際比較を通じて、理解を深めることを目標とする。	◎	○	○	◎
地域公共政策			選必		地域経営論演習Ⅱ	2	演習	地域経営の理論及び諸政策について、欧米と日本の国際比較を通じて、理解を深めることを目標とする。	◎	○	○	◎
特別演習			必修		経済特別演習Ⅰ	2	演習	指導教員の指導を受けながら、修士論文作成、または特定の課題についての研究遂行のために必要な総合的な能力を身につける。	◎	◎	○	○
特別演習			必修		経済特別演習Ⅱ	2	演習	指導教員の指導を受けながら、修士論文作成、または特定の課題についての研究遂行のために必要な総合的な能力を身につける。	◎	◎	○	○